

どさしみず ジオめぐり 足摺岬の椿林

足摺岬の椿林を見に来ました。



綺麗な椿のトンネル！満開やね！でも、ここもジオパークに関係があるが？

もちろん！地質などの大地の遺産だけでなく、大地と関係した自然も、ジオパークで守っていくものなんだよ。

椿と大地が関係しちゃうが？これだけ見事な椿の林やけん、人が植えたものかと思った。

実は足摺岬の椿林は、足摺の大地と自然、そして人の活動が関わりあって生まれたものなんだ。足摺の椿林がどうやって形作られ、そして守られてきたか、見ていこう。

今私たちが立っている場所は、足摺岬の先端部。海拔50メートルの高さにある平坦地だよ。この平坦地がどうやってできたか覚えてる？

確か、海の波で削られて平らになった土地が、隆起してできるがでね。海成段丘っていうのがやっつけたっけ？（ジオパークだより vol. 100）

そのとおり！足摺半島の海岸沿いにぐるりとある海成段丘は、栄養分がたまりやすく、肥沃な土壌のある場所なんだ。椿は正式には「ヤブツバキ」という名前なんだけど、ヤブツバキはそういう場所の森の中に好んで生えるんだよ。さらに、黒潮がもたらす温暖湿潤な気候が、足摺半島の豊かな森を育ててきたんだ。

足摺の大地や自然が森を育てたがやね。

でも、ヤブツバキはもともと、それだけで森をつくる種類の木ではないんだ。自然の状態では、タブノキなどの大木が茂る森の中に背の低いヤブツバキが混じるんだよ。

あれ、でもこの森は大きな椿の木がすごく多いよ！なんで？

実は、これが人の営みによって形づくられた部分なんだ。昔から地域の人は森で薪や材木を取って生活に利用してきた。特に、「メダケ」という竹の一種は、食べたり、建築材にしたり、宗田節づくりに利用したりと、様々に使ってきたんだよ。その時に、椿を残して、他の木を切ったことで、椿の多い森になったといわれているんだ。

でも、最近は人が昔ほど森で木を切らなくなったから、成長の早いメダケに押されて、椿林が衰退してきていることが心配されているんだよ。

えっ、それは大変！

だから、現在では、地元の人や小学校、行政が協力してツバキ林を守る「足摺ヤブ椿再生プロジェクト」を行っているんだ。地域の自然をみんなで守っていく活動なんだね。

白い灯台と赤い椿は足摺の象徴やもんね。大事にしていきたいな。

2月はちょうど「足摺椿まつり」が開催されているよ。2月5日にはいろいろなイベントもあるからぜひ行ってみてね。



発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0450 土佐清水市三崎字今芝 4032-2
TEL 87-9590 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

WEB

